



大阪府公立高校入学者選抜の「英語資格の活用」について

大阪府公立高校入学者選抜においては、英語資格(外部検定)の活用ができます。TOEFL iBT、IELTS、英検が活用対象です。英検がみなさんにとって一番馴染みがあるかと思いますが、英検2級以上で当日の英語の点数が保障されます。読み替え率は下記の表を参考にしてください。英検2級の難易度は「高校生卒業課程」のため、みなさんにはかなり難しいのですが参考にしてください。英検は年間3回行われます。日程等の詳細は英検協会のHPで必ず確認してください。千里丘中学校では団体申込み受検は実施しません。

英検には従来型の他、「英検S-CBT」というコンピューターを使った試験もあります。S-CBTで取得したのも従来型と同様に扱われます。英検S-CBTは受験日からwebでの合格発表までに約1カ月、合格証到着日までに約1カ月半かかります。必ず余裕を持った回を申し込んでください。英検S-CBTは1日で4技能全てを検定する試験です。以前は「英検CBT」と「英検S-CBT」の2種類でしたが、2021年度より1つになり、「英検S-CBT」のみとなりました。こちらも詳細は英検協会のHPで必ず確認してください。

大阪府公立高校入学者選抜における英語資格(外部検定)の読み替え率

TOEFL iBT	IELTS	英検	読み替え率
60点	6.0~9.0	準1級	100%
50点	5.5	(対応無し)	90%
40点	5	2級	80%

入学者選抜の英語の学力検査の得点と、検定から読み替えた点数を比べ、高い方を用いる。

大阪府公立高校入学者選抜における英検(従来型)の活用の可否について

英検検定回	特別選抜		一般選抜	
	A日程	B日程	A日程	B日程
第1回	可	可	可	可
第2回	可	可	可	可
第3回	否	否	可	<u>可</u>

*千里丘中学校では、団体申し込みは実施しません。

6月の進路説明会でお伝えした内容と、配布した「進路指導資料」の内容に一部訂正があります。今年の中学校3年生が受験する令和6年度入試については、第3回英検の本試験 B 日程は公立高校一般選抜入試には適用可能です。ただし、いくつか条件があります。また、今後の英検に関する日程等が変更になる場合は、適用できないこともあります。日程等の詳細は、英検協会のHPで必ず確認してください。

第3回英検の本試験 B 日程を公立高校一般選抜入試に適用する場合（今後、変更の可能性あり）

①出願日までに、個人成績表や証明書は郵送されないため、ウェブサイト（個人 英検ナビ）で可否確認ができるよう、ご家庭で手続きをして自宅でウェブ画面による合格画面を印刷する。

②合格画面を印刷したものと、英検（2次）受検票をあわせて、その日のうちに学校に持参する。学校で内容を確認し、必要事項を記載したうえで、翌日に個人で公立一般選抜の出願に行く。

また、以下の点をご了承ください。（今後、変更の可能性あり）

- 公立高校一般選抜入試は原則、出願期間の初日の出願を行っており、多くの受験生が初日に出願をします。現在の英検のスケジュールでは、①のウェブ画面での合格確認が、出願期間の2日目です。その翌日が、出願最終日となるので、第3回英検の本試験 B 日程の可否を確認してから出願する場合は、出願期間の最終日に出願することになります。（出願期間は3日間）
- 出願日が他の千里丘中学校の受験生と異なるため、同じ公立高校を受ける受験生と受験番号が離れます。受験当日も、受験する教室が異なる場合が多いです。
- 進路説明会でも説明しましたように、公立高校一般選抜入試の受験校は、2月下旬の公立懇談会で決定します。また、ウェブの不具合等で、出願2日目にウェブ画面での合格確認ができない場合や、必要書類が揃わない場合は、英検資格活用ができない場合があります。

第3回英検は私立入試直前です。受験校の過去問を解いたり、総復習をする中で、中学校の学習指導要領の内容外の英検2級対策に時間を費やすことは、皆さんにとって心身ともに大きな負担になります。英検取得を考えている人はできるだけ第2回までの英検での合格を目指し、必ず余裕を持った回を申し込んでください。今後も、英検協会のHPで必ず確認してください。

「英検2級を取りたい。」と思う気持ちもわかりますが、英検2級の難易度は「高校生卒業課程」高校卒業程度とされています。英検対策にばかり時間をかけるのはお勧めできません。バランスをとりながら、できる範囲で英検対策をしましょう。あくまでも、英語学習の一環として英検の取得を目指して欲しいです。

裏面へ続きます。必ずご確認ください。

検定利用における注意点

私立高校においても英検の活用を行っている学校が多くありますが、資格を活用することができるのは、出願までに合格が確認できた場合に限ります。学校によっては、合格の画面確認ではなく、合格証明書の到着も必要です。12月末までの合格証を有効とする高校もあります（関西大倉高校 など）。出願以降～受験日まで取得できた資格は活用できません。私立高校受験にも英検を適用したいと考えている人は、英検のS-CBTを申し込む際には、合格発表日を確認し、余裕をもった回で申し込みをしてください。また、年末に近づくと大学受験に向けて英検取得を目指す高校生も増えるため、特に申し込みにくい状況になると聞いています。申込開始日も必ずチェックしておきましょう。

英検以外にも漢字検定や数学検定などの公的資格を重視した入試を行っている学校（関西第一高等学校A専願、同志社香里高校、同志社女子高校 など）を検討している人は英検以外の取得にも早めに着手してください。漢検や数検にもCBTがありますが、CBTで申し込みをする場合は、合格発表日を確認して、余裕を持った回で申し込みをしてください。日程等の詳細はHPで必ず確認してください。

学校見学会・説明会へ行こう！

ほぼ毎日、高校などから案内ポスターやチラシが届いています。本格的に高校見学会や説明会が開催され始めました。全員配布のものは配っていますが、クラスに1枚のものはクラスファイルに綴ってもらったり、教室に掲示しています。また、ポスターは、2階トイレ横の壁の掲示板に貼っています。こまめに確認しましょう。貼りきれなかった分は、階段踊り場の掲示板に貼っています。こちらも登下校時などに確認しましょう。

すでに学校見学会や説明会に行った人、申し込みをした人もいると思いますが、まだ何もしていない人もいるのではないのでしょうか。2学期以降にも見学会は開催されますが、時間的に余裕のある夏休みにぜひ学校見学に行ってみましょう！実際に受験を検討している学校に行くと魅力や雰囲気を感じれば、受験勉強のやる気の向上にもつながります。逆に、イメージと違っていたり、通学が思っていたより大変だったりという場合もあります。志望校を決める上で学校見学はとても大切です。積極的に参加しましょう。

見学会や説明会が予約制になっている場合が多いです。そのため人数制限がされていたり、時間帯が分けられている場合もあります。気になる学校の見学会や説明会には早めに申し込みをしましょう。

★おまけの話

あじさいの花には、紫、青、赤紫、ピンクなど様々な色がありますが、花の色は初めから決まっているのではなく土壌によって変わります。酸性なら青系統、アルカリ性なら赤系統の花が咲きます。土に石灰などを混ぜるとアルカリ性の土壌になり、赤系統の花を咲かせることができます。みなさんは、これまで小・中学校で学習してきた内容は同じです。けれども、これからの進路や将来の夢は一人ひとり違います。家庭や学校や関わった人たちから影響を受けたり、読んだ本やニュースから影響を受けたり、みんなは日々の生活の中で多くのことに影響を受けながら生きています。あじさいの花がその場所に影響を受けて色が変わるように、みなさんも周囲から良い影響を受けながら、一人ひとり違う、素敵な花を咲かせてくれることを楽しみにしています。

一学期末テストを終えて

前にもお伝えしましたが、テスト結果に一喜一憂して終わるのではなく、次に同じテストを受けたら満点を取れるように、間違えた問題や理解できていない部分は、自分で復習をしたり、先生や友達に質問したりして理解しておきましょう。覚えきれていなかったところは、‘後で’と思わずに、‘今’覚え直しをしましょう。夏休み明けの実力テストまでしばらくテストはありませんが、みなさんは受験生です。受験勉強とは1,2年生の復習を始めることからスタートします。入試の7割くらいは1,2年生の内容が出題されます。夏休み明けの実力テストに向けて、計画的に1,2年生の復習を進めていきましょう。

1 学期個人懇談

来週からは三者懇談がスタートします。3年生の三者懇談では、「1,2年生の評定と3年生1学期評定」が記載された個票を渡します。1,2年生の評定に間違いがないことを確認してください。懇談では、現時点でどのような進路を考えているのかを聞きます。まだ具体的な志望校にまでつながっていない人もいますので、大まかな希望で構いません。進路についての質問や心配なことがあれば、些細なことでも、是非この機会に担任の先生に聞いてください。

みなさんは受験生です。この夏はしっかりと勉強する時期です。「夏休みに入ってから勉強するから、それまでは遊ぼう。」と思っているのは、スムーズに夏休みの勉強をスタートすることができません。今から少しずつ勉強する習慣をつけておけば、夏休みの初めには軌道に乗った状態で勉強をスタートできます。夏休みの勉強をどのように進めるのかを考え始めましょう。夏休みの勉強についても、質問や心配なことがあれば、懇談で担任の先生に聞いてください。